

■ 山田地域協働合校事業（山田学区まちづくり協議会次世代いきいきグループ）

1 【活動の趣旨】

活動を通して山田で育つ子どもの「自主性」や「協調性」、「郷土愛」を養い自身や地域を豊かする力および、将来の山田を担う人材を育成する。

2 【特徴的な活動内容】

(1) 2024やまだアドベンチャーハウス

今年度も企画チャレンジャー（中高生企画）を募集し、アドベンチャーハウスを実施した。

日時：10月27日 8:45～20:00

場所：山田まちづくりセンター、山田こども園、神社

参加者：小学4～6年生35名、中学生14名

活動内容：①ボウリング②各種ゲーム③度胸試し④かまど

(2) アドベンチャーハウスについてかまどでトーク

企画チャレンジャー（中高生企画）が（1）の慰労会として企画し、次年度仲間になり得る小学6年生を招待してヤマミラグループ等の協力の元で実施した。

日時：12月21日 15:00～19:00

場所：山田まちづくりセンター

参加者：6年生8名、中学生8名

活動内容：①かまど・軽食②トーク



3 【実施に当たっての工夫】

(1) では、手作り料理や本人らにとってほぼ経験のないボウリング等、子ども達の強い希望を企画の土台とした。(2) では、企画チャレンジャーのイベントに小学6年生、ヤマミラ等の他のグループも参加し、活動をPRした。

4 【事業の成果】

企画チャレンジャーの子ども達の強い希望からスタートしたイベントは、本人らの高いモチベーションとなった。ここ数年で企画できていなかったセンター外に出かける活動も、参加者にとって良い刺激になったと考えられる。また、中学生から「小学生をもてなすのが今回のテーマ」とコメントする場面もあった。実際に実施後アンケートでは小学生の満足度も高く、中学生になったら自分も企画チャレンジャーをやりたいという回答も多い。



5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

中高生の企画チャレンジャーによる事業の企画・運営も4年目を迎え、この方式が定着してきた。今年度は来年度を見据えて対象を小学6年生に限定した事業も実施でき、継続しての体制作りに取り掛かることができた。

企画会議の招集案内や会議後の確認および調整事項については、グループLINEを活用した。LINE上では発言しにくく、コミュニケーションに手間取る場面もあったが、アプリ上の「投票機能」等を用いることで、回答しやすい形式を工夫しながら活用した。また、今回は山田学区まちづくり協議会の他グループと一緒に活動するようになったが、さらにお互いの活動を理解し、興味を持ってもらえる工夫が必要となる。